

AA19980059J1

来年度の 公立高校入試

98.10.1 朝日

総合学科に面接導入

個性重視の選抜へ改革

府教委は三十日、来春の公立高校の入学選抜方針を公表した。府立と大阪市立で四校ある全日制の総合学科で、初めて面接を取り入れ、点数化できる学力だけでなく、個性をより重視した入試改革になった。

受験者全員に面接が義務づけられるのは、柴島、今宮、松原の府立三校と大阪

市立此花総合で、今春の募集は四校あわせて千四百四十人。

調査書と学力検査、小論文の三つの総合点で合格させる割合をこれまでの募集人員の九〇%から八五%に減らす。それに続く三〇%分の受験生をポスターソンとし、面接での評価を加味して残る一五%を選ぶ。総合学科の入試では過去

三年間、ボランティア活動などの自己申告書を試験当日に書かせていたが、文面だけでは活動の内容がはっきりしない。このため、事前に提出を受けた申告書に基づき面接することにした。申告書の内容はボランティアに限らず、志望理由や自己PRなども含めるといふ。

府教委高校教育課は「一定以上の学力があれば、後は個人の意欲や目的意識を大事にしたい。それは特色ある学校づくりにもつながるはず」と話し